

災害公営住宅の整備

事業概要

震災により住宅を失った被災者の住宅確保を支援するための災害公営住宅等の建設

災害公営住宅	戸数	駐車場	付帯施設	入居開始
白山台	12 戸	24 台	集会所	H25.4
多賀台	26 戸	50 台	集会所	H25.4
新井田道	17 戸	30 台	—	H25.4
白銀いかずち	7 戸	14 台	—	H25.5
計	62 戸	118 台	—	—



白山台災害公営住宅



多賀台災害公営住宅



新井田道災害公営住宅



白銀いかずち災害公営住宅

多賀地区津波防災まちづくり事業

事業概要

東日本大震災の津波で住家被害が最も大きかった市川(多賀)地区において、地元住民などからの意見を踏まえて「多賀地区復興まちづくり計画」を策定し、計画に基づき、避難道路や防災まちづくりの拠点となる津波避難ビルなどを整備

➤ 計画の内容

避難の 考え方

原則徒歩避難（避難時間：地震発生後45分以内）

※一部自動車での避難を容認
(徒歩避難が困難な地域の住民、災害時要援護者とその支援者)

対策の 考え方

・避難路の整備

周辺の高台（多賀台団地、桔梗野工業団地）まで、五戸川を越えずに円滑に避難できるよう道路拡幅や歩道を整備

・津波避難施設の整備

万が一逃げ遅れた避難者が一時的に避難する施設を整備
(五戸川北側：避難複合施設 五戸川南側：避難タワー)

・ソフト対策の推進（自助[住民]・共助[地域]・公助[行政]の連携）

[住民] 避難ルールへの順守、災害時要援護者の把握、実践的な避難訓練

[地域] の実施など

[行政] 避難誘導標識の設置、津波避難計画の改訂・周知など

多賀地区復興まちづくり計画



この計画は、東日本大震災の津波により、市内でもっとも大きな住家被害を受けた市川町多賀地区において、今後想定される最大クラスの津波から人命を守ることを最優先に、より安全で円滑な津波避難を可能とするための総合的対策として、避難路や津波避難施設の整備、およびソフト対策をまとめたものです。

計画の策定にあたっては、学識経験者や地元代表者等で構成する多賀地区復興まちづくり計画検討委員会を設置し、4回の会議を開催するとともに、地元の声を反映させるため、地区住民アンケートや関係団体ヒアリング、地元説明会や意見交換会を実施しました。

平成25年3月

八戸市

多賀地区復興まちづくり計画
(H25.3.21策定)

市川地区の海岸堤防整備・保安林の復旧

事業概要

●五戸川河口南側の海岸堤防(延長480m)及び陸ごうの整備 **H25年度完了**

●飛砂防備保安林の復旧 **H28年度完了**

・クロマツ苗木の植栽 : 12.88ha

・静砂工※の実施 : 33,353m

※強風や寒風、塩害等から苗木を守るため、植栽地を囲むように丸太を打ち込み、苗木の生育環境を保護する工法

震災直後



復旧・整備後



五戸川地震高潮対策河川事業

事業概要

五戸川の地震・高潮対策としての既設堤防の嵩上げ、粘り強い構造への改良

- ・計画延長 : 3,490m(両岸分)
- ・事業期間 : H23年度～R2年度(予定)

東日本大震災では五戸川で引き波と押し波が衝突し堤防から越流
(木村権三郎氏撮影・提供)



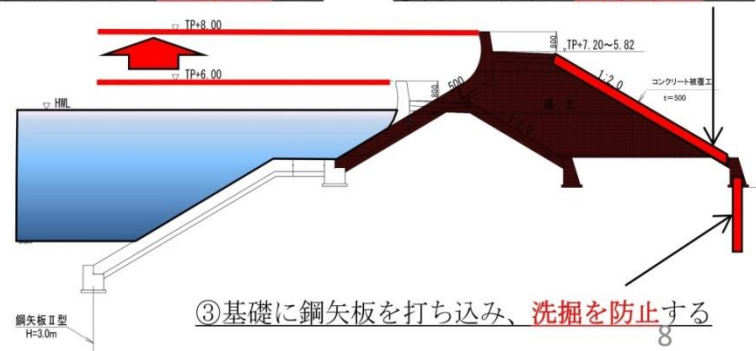
破堤の様子 (五戸川河口部)



計画堤防横断図

整備方針：既設堤防を2m嵩上げし、粘り強い構造へ改良する

- ①既設の堤防を2m嵩上げする
- ②裏法を被覆し流出を防止する



- ③基礎に鋼矢板を打ち込み、洗掘を防止する

県公表資料(H25.9.6 創造的復興に向けた三八地域県民局の取組状況)より

整備後



橋向尻引線他道路改良事業

事業概要

津波の被害を受けた市川（多賀）地区における避難路の整備として、橋向尻引線及び向谷地堤下線について現道拡幅等の道路改良を実施

- 整備路線
 - ①市道橋向尻引線
 - ②市道向谷地堤下線
- 整備内容
 - 車道拡幅、歩道整備
- 延長
 - ①1,423.3m ②1,047.0m
- 幅員
 - ①8.0m→9.5m～11.0m
 - ②5.0m→9.5m

位置図



経過 ※橋向尻引線は整備中

- H27.2
着工
(向谷地堤下線)



整備中

- H29.3
完成
(向谷地堤下線)



整備後

2号橋向線道路改良事業

事業概要

津波の被害を受けた市川（多賀）地区における避難路の整備として、2号橋向線について現道拡幅等の道路改良を実施

- 整備路線 市道2号橋向線
- 整備内容 車道拡幅
- 延長 592.1m
- 幅員 4.0m→6.0m

位置図



経過

- H27.3
着工



整備前

- H28.12
完成



整備後

市川工業団地通線道路改良事業

事業概要

津波の被害を受けた市川（多賀）地区における避難路の整備として、市川工業団地通線について現道拡幅等の道路改良を実施

- 整備路線 市道市川工業団地通線
- 整備内容 車道拡幅
- 延長 347.2m
- 幅員 3.0m→6.0m

位置図



経過

- H27.9 着工



整備前

- H28.3 完成



整備後

市川後高屋敷線他道路改良事業

事業概要

津波の被害を受けた市川（多賀）地区における避難路の整備として、市川後高屋敷線及び市川後下揚線について現道拡幅等の道路改良を実施

- 整備路線
 - ①市道市川後高屋敷線
 - ②市道市川後下揚線
- 整備内容
 - ①639.9m ②63.7m
- 延長
 - ①・②3.0m→6.0m
- 幅員

位置図



経過

- H27.4
着工



整備前

- H28.3
完成



整備後

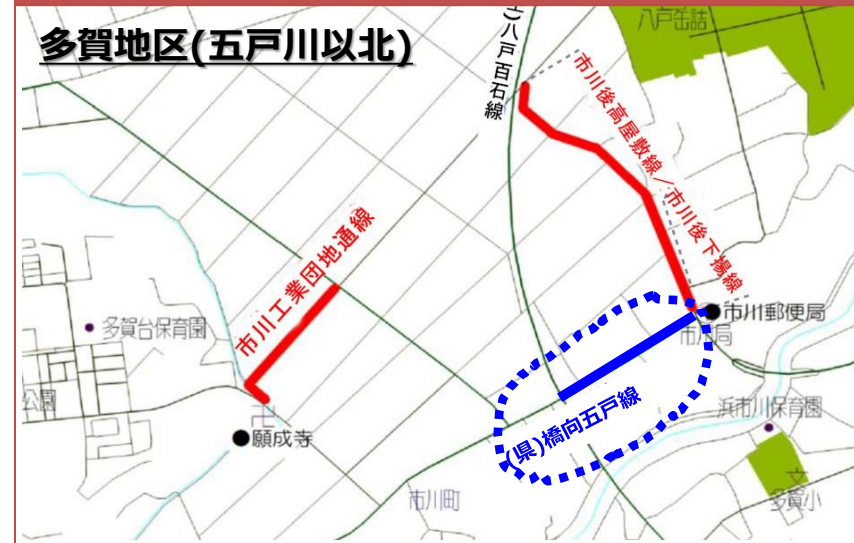
橋向五戸線歩道拡幅事業

事業概要

津波の被害を受けた市川（多賀）地区における避難路の整備として、橋向五戸線について現道拡幅等の道路改築を実施

- 整備路線 県道橋向五戸線
- 整備内容 歩道拡幅等
- 延長 約300m
- 幅員 7.2m～11.1m→12.5m

位置図



経過

- H27.9 着工



- H28.3 完成



多賀地区津波避難タワーの整備

事業概要

多賀地区五戸川南側において、最大クラスの津波発生時に避難困難者を緊急・一時的に避難させる施設として整備

➤ 施設概要（平成27年9月完成）

- ① 建設場所 : 市川町字上大谷地45-3地内(敷地面積2,016.02㎡)
- ② 想定収容者数 : 80人
- ③ 構造 : 鉄骨造(緩衝材設置/避難スペースは冬期避難を考慮し居室タイプ)
- ④ 避難階(2階)床面高さ : 13.02m (浸水深9.02m+余裕高4.0m)
- ⑤ 2階床面積 : 175.84㎡ (居室80㎡、その他備蓄庫・トイレ・廊下等)

位置図



多賀多目的運動場の整備

整備目的

- ・震災の津波による住家被害が市内で最も大きかった多賀地区の活力創出
- ・最大クラスの津波からの被災を免れるための緊急・一時避難施設
- ・地域住民の交流スペースといった日常的な機能も備えた施設として整備

◆施設の概要（平成28年10月供用開始）

- ・管理棟（鉄筋コンクリート4階建）
- ・メインスタンド、芝生スタンド
- ・天然芝球技場（5,200人収容、電光掲示板）
- ・人工芝球技場（1,700人収容）
- ・駐車場、多目的広場 など

管理棟4階（津波避難施設）



想定収容者数
：100人程度
避難階床面高さ
：約12.45m
(想定浸水深7.72m)

